

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 3 日現在

機関番号：16401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24593441

研究課題名(和文) 知的障害のある青年期女子の性発達支援におけるネットワークの構築

研究課題名(英文) The establishment of a network to support sexual development of adolescent women with intellectual disabilities

研究代表者

岡田 久子 (OKADA, Hisako)

高知大学・教育研究部医療学系・助教

研究者番号：00553158

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、社会への送り手である学校と社会の受け手である支援者が、知的障がいのある女子の自立した日常生活及び社会生活に向けて、学校関係者・看護・施設・行政等と協働連携し、性発達支援におけるネットワークの構築を図ることである。

特別支援学校教員は、学校を軸とした連携が重要であると考えていた。教員は、知的障がいのある女子が、卒業後に地域の中で成長していくことへの期待がある反面、卒業後の関わりにおける教育の限界を捉えていた。市町村保健師は、保健師の地域での役割を明確化すること、学校と地域におけるシステムとしての連携づくりの重要性や、性に関する教育の具体策を検討していくことについて捉えていた。

研究成果の概要(英文)： This study aimed to establish cooperation among schools, carers, and school staff/nurses/health institutions/government to help adolescent women with intellectual disabilities live independently in society, and establish a network to support their sexual development.

Teachers at special needs schools considered that <school-based cooperation> is important. On the one hand, they had hopes for such women to grow and thrive in the community after graduation, but at the same time, they recognized an educational limitation on interacting with those who had graduated. Public health nurses perceived the importance of clarifying their roles in the community, establishing a cooperative system between schools and community, and examining practical measures for providing sex education.

研究分野：基礎看護学 学校保健

キーワード：知的障がい 性発達支援 切れ目のない支援 ネットワーク

## 1. 研究開始当初の背景

障害者自立支援法では、障害者が地域で暮らせる社会、自立と共生の社会の実現が掲げられており、地域生活支援の事業もスタートしている。また、母子保健においては、妊娠届による母子手帳交付時に妊婦アンケートを実施し、ハイリスク妊婦をスクリーニングし早期対応を行なっている地域もある。

知的障害児・者のセクシュアリティの問題は、男女交際や結婚生活の実際の場面において、知的障害者が倫理やモラルの概念を理解することが難しいことや、育児や生活調整への能力が十分でないことが挙げられる。これらの課題解決には、知的障害のある青年期女子の人間成長に向けて、知的の程度や特徴を踏まえた繰り返しの教育・支援が必要となる。支援にあたっては、成長段階に応じた長期的な取り組みや、結婚・育児など多岐にわたる内容への即時的対応が求められる。しかし、現状では問題が生じてからの後追い支援となっており、知的障害のある青年期女子の特別支援学校卒業後からの性発達支援におけるネットワークは十分であるとはいえない。それらの課題解決に向け、社会への送り手である学校と社会の受け手である支援者が、横の繋がりを大事にし、点である支援を面となる支援になるようなネットワークの構築が重要であると考えられる。

本研究では、知的障害のある青年期女子の「性発達」と「サポート体制」における高知県の実態に焦点を絞り、社会への送り手である学校と社会の受け手である支援者にインタビューを行い、性教育の現状や関係機関との連携状況や問題点・強化すべき点を明らかにする。そして、継続研究として、実際に育児をしている知的障害のある青年期女子やその家族にもインタビューを行い、本人が抱えている現状や相談窓口の活用、支援を必要とする出来事等を明らかにする。それらの事実をもとに、長期にわたるサポート体制に必要となる内容として、支援者間の情報共有の場をどのようにしていくか、サポートの限界は何か、サポートの限界をどのようにフォローするか、支援者間のバトンタッチの具体策等について明らかにする。そして、社会への送り手である学校と社会の受け手である支援者が、相互に協働連携し、知的障害のある青年期女子が生涯を通じて豊かな生活を送ることができるよう、特別支援学校卒業後からの性発達支援におけるネットワークの構築を図ることである。

## 2. 研究の目的

平成 24 年度

本研究の目的は、特別支援学校教員が捉えた特別支援学校卒業後の知的障がいのある青年期女子の性発達における課題の現状や相談窓口、関係機関との連携状況や強化すべき点などを明らかにすることである。

平成 25 年度

本研究の目的は、市町村保健師が捉えた知的障がいのある青年期女子の性発達における支援の実際や相談窓口、関係機関との連携状況や強化すべき点などを明らかにすることである。

平成 26 年度

知的障がいのある女子の性発達支援に関する研究協議会の目的は、社会への送り手である特別支援学校と社会の受け手である市町村保健師（母子・福祉関係）が相互に協働連携し、知的障がいのある女子が特別支援学校を卒業後、自立して日常生活および社会生活を営むことができるようネットワークを構築することである。

## 3. 研究の方法

平成 24 年度

### 1) 対象者

対象者は、A 県の知的障がいの特別支援学校に勤務する教員 10 名である。なお、対象者の選定については、各学校長の同意を得て、研究協力の依頼を行い、対象者の推薦を受けた。

### 2) データ収集方法

半構成的な質問による面接を行った。場所は、プライバシーの守れる個室で行った。時間は 1 人 60 分程度とした。内容は、対象者に許可を得て IC レコーダーに録音した。

### 3) データ収集内容

(1) 対象者の特性：経験年数・性別・年齢・資格・結婚の有無

#### (2) インタビューガイド：

在学中の男女交際について  
卒業後の関わりについて  
ネットワークの構築について

### 4) データ収集期間

平成 22 年 11 月～平成 25 年 1 月

平成 25 年度

### 1) 対象者

対象者は、A 県の市町村保健師 9 名である。なお、対象者の選定については、各所属長の同意を得て、研究協力の依頼を行い、対象者の推薦を受けた。

### 2) データ収集方法

半構成的な質問による面接を行った。場所は、プライバシーの守れる個室で行った。時間は 1 人 60 分程度とした。内容は、対象者に許可を得て IC レコーダーに録音した。

### 3) データ収集内容

(1) 対象者の特性：経験年数・性別・年齢・資格・結婚の有無

#### (2) インタビューガイド：

男女交際・結婚・育児について

相談窓口について  
ネットワークの構築について

4) データ収集期間  
平成 26 年 1 月 ~ 平成 26 年 3 月

平成 26 年度

1) 対象者  
A 県特別支援学校教員 5 名・A 県市町村保健師 5 名・A 大学教員 2 名

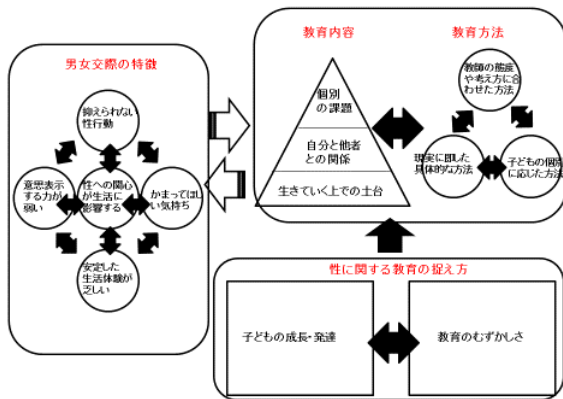
2) 研究協議会開催日  
(1) 平成 26 年 12 月 10 日  
(2) 平成 27 年 1 月 28 日

3) 研究協議場所  
A 大学医学部看護学科

4. 研究成果  
平成 24 年度

1) 対象者の特性  
本研究の対象者は、知的障がいのある特別支援学校に勤務する教員 10 名で、性別は男性 1 名、女性 9 名、年齢は 40 代が 5 名、50 代が 5 名であり、平均年齢は 50.7 歳 (SD = 4.62)、経験年数は 20 年未満が 2 名、20 年以上が 4 名、30 年以上が 4 名で、平均経験年数は 25.8 年 (SD = 6.55) であった。

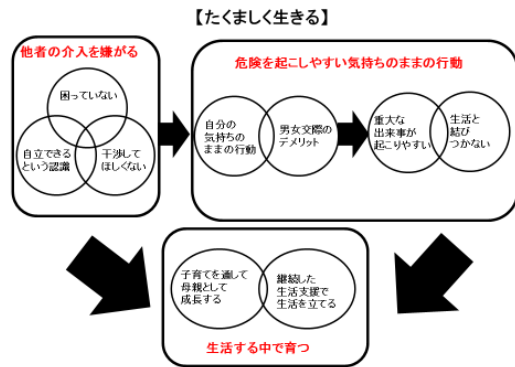
2) 特別支援学校教員が捉えた知的障がいのある女子の男女交際と性に関する教育



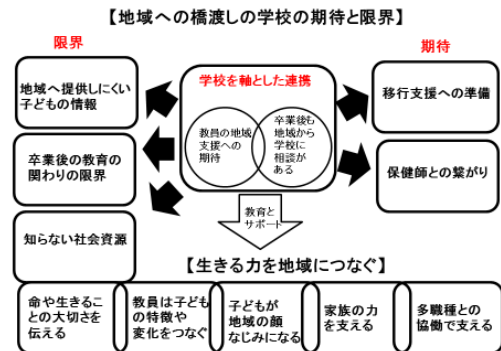
特別支援学校教員が捉えた男女交際の特徴は 抑えられない性行動 意思表示をする力が弱い かまってしまう気持ち 安定した生活体験が乏しい 性への関心が生活に影響する の 5 つのカテゴリー、性に関する教育の捉え方は「子どもの成長・発達に関すること」が 3 つのカテゴリー、「教育の難しさに関すること」が 3 つのカテゴリー、性に関する教育内容は 生きていく上での土台となる内容 自分と他者との関係となる内容 個別の課題となる内容 の 3 つのカテゴリー、性に関する教育方法は 教師の態

度や考え方に合わせた方法 現実に即した具体的な方法 子どもの個別に応じた方法 の 3 つのカテゴリーが抽出された。特別支援学校教員は、知的障がいのある女子の男女交際の特徴を踏まえたうえで、性に関する教育について子どもの成長発達の視点で捉え、教育の難しさを感じながらも、子どもの生きていくうえでの土台や、心の成長や自立に向けて教育内容を考え、それに応じた教育方法で取り組んでいることが明らかになった。

3) 特別支援学校教員が捉えた知的障がいのある女子の性発達支援における地域とのつながり



特別支援学校教員は、知的障がいのある女子が他者の介入を嫌がり、気持ちのままに行動し危険を起こしやすいが、生活する中で成長すると捉えていた。



特別支援学校教員は、学校を軸とした連携が重要と考え、学校での教育とサポートは子どもの生きる力につながると捉えていた。そして、教員は地域で支えてもらいながら子どもが成長していくことへの期待がある反面、卒業後の関わりにおける教育の限界があると捉えていた。

平成 25 年度

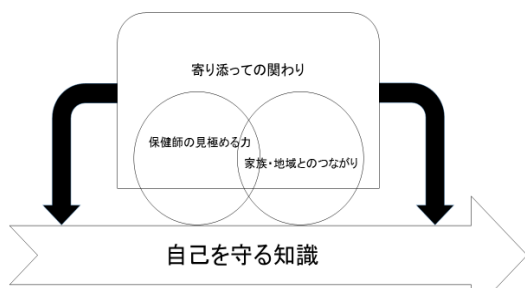
1) 対象者の特性  
本研究の対象者は、市町村保健師 9 名で、

性別は女性9名、年齢は50代が1名、40代が3名、30代が5名であり、平均年齢は42.1歳(SD=7.39)、経験年数は10年未満が1名、20年未満が6名、20年以上が2名で、平均経験年数は15.3年(SD=4.5)であった。

## 2) 保健師が関わった知的障がいのある女子の男女交際・結婚の実態と対応

保健師は、知的障がいのある女子の男女交際の場面では【自分の身体を守る行動が取れない】【衝動的に男性を求める】などの性行動や、知的障がいのある女子の結婚や育児の場面では【計画的妊娠ができない】【一人では子育てが困難】【一人で育てたいが余裕がない】などの課題を捉えていた。その課題の背景として【家族力が低い】【地域で安心できる居場所がない】などの地域で生活していくための基盤の脆弱さや、【自立心はあるが適応力が低い】【感情表出が未熟】などの知的障がいのある女子の障害の特性を要因としつつも、【経験により力が高まる】など成長する様子も捉えていた。また、知的障がいのある女子の男女交際・結婚に対する保健師の対応として 性に関する課題の発見や早期対応を重要とし、基本的な生活習慣を整える 家族力を高める調整 力に応じた仕事の継続支援 生活場面に応じた細やかな育児支援 が明らかとなった。

## 3) 知的障がいのある女子の性発達支援における保健師の認識



知的障がいのある女子の性発達支援における保健師の認識は 自己を守る知識 寄り沿っての関わり 保健師の見極める力 家族・地域とのつながり などが明らかになった。保健師が捉えた知的障がいのある女子の男女交際は、特別支援学校教員が捉えた男女交際の特徴と同様の結果が見られた。また、性発達支援における地域での課題として、現在、特別支援学校で行われている教育内容や方法も視野に入れながらお互いが協働連携し、性に関する教育を構築していく必要性が示唆された。同時に、知的障がいのある女子の生活背景を踏まえ、特別支援学校在学中から卒業後の自立した日常生活及び社会生活に向けて、切れ目のない支援を目指して具体策を検討していくことが必要である。

平成 26 年度

### (1) 性に関する捉え方

参加者とのディスカッションを通して、小さい時からの命を守るという視点、子どもたちの目標を明確にして関わること、心を育てること、自尊感情を基盤に認める関わりを大事にすること、表現できる力をつけていくこと、家族の力をサポートしていくことの必要性が出された。また、性に対する価値観を振り返ることや、危機感に対する共通認識を持つことができた。

### (2) 知的障がいのある女子の性発達支援における課題共有

特別支援学校では、“かけがえのない命”を基盤に、将来の生活に焦点を当てて授業に取り組んでいる。地域の保健師の事例を通して、避妊教育が必須の課題であること、関わり始めてからの子どもの成長について共有することができた。

### (3) 学校と地域(福祉・母子)との連携を視点に考えること

特別支援学校教員からは、地域での社会資源を詳しく知りたいことや、家庭背景が複雑な子どもで保健師との連携で助けられた事例が出された。地域の保健師からは、保健師の地域での役割を明確化すること、システムとしての連携をどのように考えていくのか、地域 学校 地域の中で1人の人生にどのように関わるか考えて行くこと、家族の力をつける関わり、土日の活動への支援、相談支援事業所の活用について意見が出された。

### (4) 性に関する教育の具体策

子どもへの指導として、自己を守る知識を前提に、身体と心の成長・人としての在り方・自立する力(生きる力)に分類し、教育内容や方法を考えていくことが確認された。

## 5. 主な発表論文等

### 〔雑誌論文〕(計1件)

岡田久子、尾原喜美子：特別支援学校教員が捉えた知的障がいのある女子の性発達支援における地域とのつながり - 特別支援学校卒業後の現状と課題 -、教育保健研究(査読有)18号、2014、19-26

### 〔学会発表〕(計3件)

岡田久子、尾原喜美子：特別支援学校教員が捉えた知的障がいのある女子の男女交際と性に関する教育、日本看護科学学会、2013.12.6-7 大阪国際会議場(大阪)

岡田久子、尾原喜美子：特別支援学校教員が捉えた知的障がいのある女子の地域とのつながり、日本学校保健学会、2013.11.16-17 聖心女子大学(東京)

岡田久子、尾原喜美子：地域の支援者が語る知的障がいのある青年期女子の性行動、日本思春期学会、2012.9.1-2 軽井沢プリンスホテルウエスト（長野県）

## 6．研究組織

### (1)研究代表者

岡田 久子 (OKADA, Hisako)  
高知大学・教育研究部医療学系・助教  
研究者番号：00553158

### (2)研究分担者

尾原 喜美子 (OHARA, Kimiko)  
高知大学・学内共同利用施設等・名誉教授  
研究者番号：40314984